

前年度と大差ない歩留りの結果となった。4区は沖出し後毎日潜水し、斃死魚の取り上げ計数を行なったが、確認斃死魚468尾、不明魚1,732尾という結果となり、不明魚が非常に多い。この区は二重網区であり、網外生物による食害は考えられないことから、逃逸あるいは斃死して網外に出たと推察された。

沖出し直後より昼間の潜水観察時には逃逸魚は1尾も確認していないことからいずれの場合にしても夜間であろう。沖出し時の体高から考えても斜めにであれば通過可能な個体も存在しており、昼間の観察だけで逃逸あるいは斃死魚の網通過はなしと考えられない。したがって次年度はより目合の小さなものを使用する必要がある。

網外生物による食害を考慮して二重網とした区と従来の方法との比較を行なったが、明確な差は認められなかった。目合が3mm程度の網では影響は少ないと思われるが5mm目からは前年度同様食害があった。したがって目合の大きな網に交換する場合は充分注意し、出来れば沖出し時より二重網にするほうが安全であろう。

3、4区取り上げ時、外見による異形魚の調査を行なったが、その出現率は28.8%であり前年度に比べ高かった。異形魚の大多数は逆への字型であった。

## 2. 成長試験

前年度当場で種苗生産したマダイを飼育し、成長速度、増肉係数等について調査した。

### 材料と方法

供試魚は前年度当支場で種苗生産したマダイを引き続き飼育した。餌料はマダイ用配合飼料にフィードオイル3~7%添加したものをを使用した。投餌は原則として1日2~4回飽食するまで与えた。生簀は当初3×3×2.5mで昭和56年12月23日、4×4×4mとした。生簀網は1.5cm目2cm目のものを使用した。昭和57年5月18日選別を行ない、小型魚及び異形魚を除き新たに300尾で開始した。水温、塩分濃度は毎日午前10時に測定した。

### 結果と考察

飼育結果を表16に、また成長と月平均水温を図7に示す。塩分濃度は24.10~34.32‰であった。

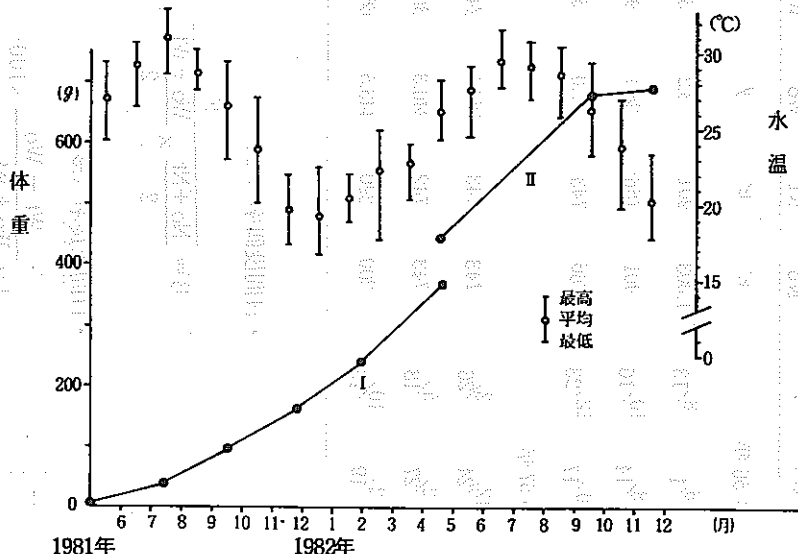


図7 マダイの成長と水温

表 1 6 飼 育 結 果

養成期間		尾 数		体 重		尾 叉 数		投 餌 量 F g	歩 留 り %	日 投 餌 率 B %	日 投 餌 間 隔 I %	飼 料 転 換 率 E %	増 肉 係 数 R %	備 考	
開 始	終 了	開 始 No	終 了 Nt	開 始 Wo	終 了 Wt	開 始 mm	終 了 mm								
S 56 年															
6/1	8/13	1,003	901	3.2	38.1	51.7	110.0	36,400	89.8	2.5	2.3	92.0	1.17		
8/14	10/16	901	756	38.1	97.0	110.0	150.0	65,300	83.9	1.9	1.4	73.7	1.34		
10/17	12/23	756	743	97.0	63.1	150.0	178.2	89,000	98.3	1.3	0.7	53.8	1.86		選 別 300 尾 残 す
S 57 年															
12/24	2/26	743	743	163.1	240.3	178.2	209.0	83,900	10.0	0.86	0.59	68.6	1.46		
2/27	5/18	743	742	240.3	368.4	209.0	237.7	302,320	99.9	2.9	0.52	17.9	3.18		
2/19	10/13	300	290	443.5	681.3	255.0	297.4	327,150	96.7	1.28	0.27	21.1	4.66		II

• 日間投餌率 (%)

$$B = \frac{No + Nt}{2} \times \frac{Wo + Wt}{2} \times 100$$

• 飼料転換効率率

$$E = \frac{I}{B} \times 100$$

• 日間成長率 (%)

$$I = \frac{Wt - Wo}{Wo + Wt} \times 100$$

• 増肉係数

$$R = \frac{F}{\frac{No + Nt}{2} \times (Wt - Wo)}$$

No: 養成開始時の尾数 (尾)

Nt: t 期間養成後の尾数 (尾)

Wo: 養成開始時の平均体重 (g)

Wt: t 期間養成後の平均体重 (g)

F: 養成期間中の総投餌量 (g)

t: 養成期間 (日)